

### 平成28年度 森林づくり活動報告会

## 大学と地域がつながった 森林づくりに関する 自己学習について

とげっちよ組 「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊 森人

平成29年1月19日

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局  
(福島大学 地域連携課)  
研究員 岩本 正寛

## アカデミア・コンソーシアムふくしまとは

**概要**  
平成22年3月に、福島県高等教育協議会を発展させ発足した、**本県唯一の高等教育機関すべてが加入したコンソーシアム**。福島県内の大学、短大、高等、テクノアカデミーが、行政や経済団体などの協力を得ながら、知的・教育的資源を活用して、地域の発展に資するため組織である。

**会員機関**  
【正会員】  
会津大学、いわき明星大学、奥羽大学、郡山女子大学、日本大学工学部、東日本国際大学、福島学院大学、福島県立医科大学、福島大学、放送大学福島学習センター、会津大学短期大学部、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、福島工業高等専門学校、福島県立テクノアカデミー郡山、福島県立テクノアカデミー会津、福島県立テクノアカデミー浜（以上、19機関）  
【特別会員】  
福島県、福島県市長会、福島県町村会、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島県中小企業団体中央会、福島県農業協同組合中央会（以上、7機関）

## アカデミア・コンソーシアムふくしまと森林

**これまでの関わり**

- 平成24年度より始まった文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「ふくしまの未来を拓く『強い人材』づくり共同教育プログラム」の一つの取組として、「**会津高原 森林の楽校**」を実施（平成25年度～）。
- 南会津町で伐採された間伐材を地元の産産施設が割管に加工し、福島大学の学生食堂で使用されている。また使用後の割管はこの施設に戻り、木製パレットの材料となる。こうした循環を現地で見て学ぶプログラムを、毎年継続して学生グループ（わりばしから環境を考える会）が企画し、実施した。
- 派生して、使用済み割管がパーティクルボードの材料となる過程や、同じ間伐材を用いた割管でも高級志向の割管を製造する企業を見学する取組を、福島工業高等専門学校の学生グループ（コミュニケーション情報学科芥川研究室）が実施した。

このような実績を有すアカデミア・コンソーシアムふくしまで「森林」をテーマとした自己学習事業ができるのではないかと？

**若者の森林自己学習支援事業へ**

## 若者の森林自己学習支援事業について

**目的**  
県内の大学等におけるサークルなどのグループに対し、森林自己学習活動の実施を支援するとともに、より効果的な学習の実施を推進するため、県内の複数の大学等とのネットワークを持ち、それらの大学等が連携した教育機会の提供を行っている団体が行う、連絡調整や成果発信の取組を支援する福島県の事業。平成28年度より開始したもので、初年度は学生グループ3団体と、アカデミア・コンソーシアムふくしまが支援の対象となった。

**活動団体**

| 団体名                  | 人数  | 大学   | 活動対象地域    |
|----------------------|-----|------|-----------|
| とげっちよ組               | 7名  | 福島大学 | 南会津町中荒井区  |
| 「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊 | 20名 | 会津大学 | 南会津町中小屋地区 |
| 森人（もりんちゅ）            | 3名  | 福島大学 | 田村市、いわき市  |

※ 森人については、日本大学工学部にも「郡山支部」のような位置付けで窓口を設ける機運が高まっているが、現時点では決定できていない。

## 活動のフィールドについて

**団体と活動地域**

「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊  
とげっちよ組  
森人

南会津町中小屋地区  
南会津町中荒井区  
田村市 郡山林・自然塾  
いわき市 道の山荘

福島大学  
会津大学  
日本大学工学部

## 取組の実施体制

福島県 (事業費)

- とげっちよ組 (自己学習) → 南会津町中荒井区 → 一体となった教育プログラム
- 「ふくしま」の魅力を発見、世界に発信し隊 (自己学習) → 南会津町中小屋地区 → 一体となった教育プログラム
- 森人 (自己学習) → 田村市、いわき市 → 一体となった教育プログラム

アカデミア・コンソーシアムふくしま (申請書作成等の指導、担当教員との調整、学修成果の抽出)

## とげつちよ組の活動について①

### 団体について

少子高齢化や中山間地域の過疎問題に立ち向かい、地域住民等との協働により地域活性化を促進するための活動を展開し、大学生の健全かつ自発的な人材育成を促進することを目的とした、福島大学の学生サークル。

### 平成28年度の活動

森づくりワークショップの実施

(平成28年10月1日～2日, 1泊2日)

- ・ 中荒井区の概要に関する説明
- ・ 南会津町ほか福島県の林業に関する学習
- ・ 南会津町地域おこし協力隊による講演
- ・ 如活禅師の墳墓周辺の見学
- ・ 地元住民との意見交換会
- ・ 奥会津博物館の見学

以上の内容を、1泊2日で行った。

### 参加者

福島大学の学生7名, 教職員3名



7

## とげつちよ組の活動について②

### 活動の様子



8

## (参考) とげつちよ組の他の活動

### 概要

平成28年9月に白河市で行われた「風とロック芋煮会2016」の会場内に出展する飲食店が使用する割箸を、南会津町内で間伐された木材を加工し作られた間伐材の割箸にし、使用済みの割箸を会場内で回収するプロジェクトを、福島民報社と「風とロック芋煮会2016」の実行委員長である前内道彦氏の協力を得て、「とげつちよ組」が実現した。

森林資源の活用の実情や、間伐材を加工し商品化する生産施設を知ってもらおう機会として「風とロック芋煮会」を用いたのは今回が初めてであり、また前内氏も「とも風とロック芋煮会らしいアイデア」と賞賛してくださった点が特筆される。

### 活動の様子



9

## 「ぶくしま」の魅力を発見, 世界に発信し隊の活動について①

### 団体について

南会津町山口にある過疎・中山間地域である中小屋集落へ定期的・組織的に訪問し、集落との絆を強固にし、集落活性化を図ることを目的とした、会津大学の学生サークル。

### 平成28年度の活動

南会津町山口にある中小屋集落をフィールドとした、地域と若い力を融合させた取組として、下記のような活動を展開している。

- ・ 集落の魅力調査
- ・ 地域の誇りを大事にしたイベントの実施 (福寿草まつり) に向けた準備
- ・ 農作業体験
- ・ 伝統文化継承
- ・ 異食文化交流, 郷土料理・地産地消の取組
- ・ 自治体に対するヒアリング
- ・ 以上に際する, インターネットを用いた積極的な情報発信

### 参加者

会津大学の学生20名, 教職員1名

10

## 「ぶくしま」の魅力を発見, 世界に発信し隊の活動について②

### 活動の様子



11

## 森人 (もりんちゅ) の活動について①

### 団体について

福島県内の森林の問題に立ち向かい、森林資源の活用や現状を学ぶための活動を展開し、これからの福島県の林業について学生自ら考える力を向上させることを目的とした、福島大学の学生サークル。

### 平成28年度の活動

- フォレストツアー-inいわき プレセミナーの実施 (平成28年11月20日)
  - ・ アイスブレイク
  - ・ 県内外の林業に関する学習
- フォレストツアー-inいわきの実施 (平成28年11月26日～27日, 1泊2日)
  - ・ 田村市, いわき市の森の見学
  - ・ グループディスカッション
  - ・ ものづくり体験
- フォレストツアー-inいわき アフターセミナーの実施 (平成28年12月18日)
  - ・ フォレストツアー-inいわきのリフレクション



### 参加者

福島大学, 日本大学工部部の学生10名, 教職員4名

12

### 森人 (もりんちゅ) の活動について②

活動の様子

13

### (参考) 学修成果の示し方について

学修成果のイメージ

ループブックとは  
学生の学修成果の度合いを、項目と尺度で記した表。学修成果の評価に加え、学生本人の学習の羅針盤としても用いることができるものである。

14

### 活動を通じた学修成果

森づくりワークショップの学修成果

「課題探求力」と「課題解決力」は地域の課題を抽出しグループワークを行う上で欠かせない能力であり、また「薄く力」もグループワークのファシリテーターに求められる力であるため、このいずれもが伸びた点は狙いどおりである。  
他方、「基本的な姿勢」については学生が企図したとおりに展開できないなどの反省点があったため、終了後に自信を喪失したことなどによるマイナスの成長だった。

フォレストツアーinいわきの学修成果

概ね均等に成果が出ており、多様な学習効果があった取組であると考えられる。林業の抱える現状を理解し、対策を考えることにより「課題探求力」と「課題解決力」が伸び、また大学間連携により背景の異なる学生同士が交流しながら学んだことにより「つなぐ力」と「薄く力」が伸びたと考えられる。

15

### これからの「森林自己学習」①

課題

- 「アカデミア・コンソーシアムふくしま」にとっては中心的な取組と位置づく森林に関する教育事業だが、**県内に2万人いる大学生にとって、「森林」はマイナーなテーマである。**
- したがって、今年度の事業推進にあたっては、「こういう県庁の事業があって……」「予算が付くよ……？」という説明をして、打って響く反応のあった学生グループはたいへん少ない。よって、「やってみようかな」と思える具体的な先例、いわば**“実績”をきちんと示すことが急務。**
- 情報発信についても課題が残されているが、学生は学生にできることを精一杯やっており、また県庁森林計画課の協力を得ながら県民に対する情報発信も一生懸命やっている。

16

### これからの「森林自己学習」②

周囲でできること

- 「森林の課題」=「難しい」「自分には無縁だ」というイメージを壊し、身近な課題であるということの理解者を増やしていく活動に、大学や行政だけでなく、県民の皆様からのご理解とご支援を賜りたい。
- 活動する学生のモチベーションを高めるためにも、彼らの情報発信を温かく見守っていただきたい。
- 「ウチの町には、こんな森林資源があるよ!」という地域住民の方と、「ウチの大学では、○○の資源を利用した地域活性化をしたい!」という大学のマッチングも必要。南会津町の中荒井区、中小屋集落と同様に、大学生が溶け込める地域と、その周辺の山林の組み合わせを増やしていきたい。

17

ご清聴、ありがとうございました。

報告についてご不明な点は、お気軽にお問い合わせください。

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局  
(福島大学 地域連携課内)  
電話：(024)548-5295 ※平日8:30～17:15  
E-mail：acf@adb.fukushima-u.ac.jp

<https://www.facebook.com/ACFukushima/>